

8020 運動推進特別事業 事業報告 市町村職員の歯科コーチングスキル向上事業

1 事業目的

大阪府民に対して歯科口腔保健にかかる啓発等を直接行っている市町村職員の歯科にかかる専門性を高め、歯科に関する府民啓発の活性化を図る。

2 事業結果

2-1 事業実施検討委員会の実施

有識者、歯科医師、歯科衛生士を委員として検討委員会を立ち上げ、以下の4点を作成した。

①府民向け啓発資料（スライド）のひな型

●ライフステージ別テーマ

- ・妊産婦の歯とお口の健康
- ・乳幼児期の歯とお口の健康（4か月～3歳）
- ・成人期の歯とお口の健康
- ・高齢期の歯とお口の健康

●その他のテーマ

- ・歯周病と糖尿病
- ・タバコと歯とお口の健康
- ・口臭
- ・誤嚥性肺炎
- ・認知症と口腔ケア
- ・災害対策

②歯科口腔保健啓発チラシのひな型

- ・成人歯科健診に係る啓発チラシ
- ・妊婦歯科健診に係る啓発チラシ

③歯科口腔保健に係るデータ集

④市町村職員歯科コーチングスキル向上研修会テキスト

開催日時

- | | |
|-----|---------------------|
| 第1回 | 令和元年5月28日（火）18時30分～ |
| 第2回 | 令和元年8月29日（木）18時30分～ |
| 第3回 | 令和2年2月25日（火）17時～ |

検討委員会 委員名簿（順不同・敬称略）

	氏 名	所 属
委員長	北垣 英俊	大阪府歯科医師会 理事
委員	土居 貴士	大阪歯科大学口腔衛生学講座 講師
〃	関根 伸一	大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教室 講師
〃	品田 和子	大阪府歯科衛生士会 専務理事
〃	大野 公子	大阪府歯科衛生士会 常務理事
〃	蒲生 祥子	大阪市健康局健康推進部歯科口腔保健担当 医務副主幹
〃	辻 幹人	堺市健康福祉局健康部健康医療推進課 参事
〃	山本 道也	大阪府歯科医師会 理事
〃	長尾 光理	大阪府歯科医師会 理事
オブザーバー	南 由美	大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課 総括主査
〃	毛利 泰士	大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課 技師

2-2 市町村における集団健康教育の現状等調査

府民向け啓発資料（スライド）やチラシの作成、市町村職員歯科コーチングスキル向上研修会を実施するにあたり、まずは市町村における健康教育の実態及び希望を把握するために大阪府下の43市町村に対して実態調査を行った。

【調査項目】

- ・ 歯科専門職の配置状況及び健診業務の実施状況
- ・ 集団健康教育の実施状況
- ・ 府民向け啓発資料（スライド）及び啓発チラシ、研修会について

【実態調査結果】

回答数：42市町村（57担当部署）

（1）歯科専門職の配置状況

	配置	市町村数	(%)	
常勤	有	歯科医師	15 5	35.7 —
		歯科衛生士	13	—
	無	27	64.3	
非常勤	有	歯科医師	27 16	64.3 —
		歯科衛生士	27	—
	無	15	35.7	

常勤、非常勤ともに配置がないのは11市町村（26.2%）。

(2) 各業務に従事する職種別の人数及び市町村数

業務内容			健診業務	集団健康教育	歯科口腔保健に係る政策立案
常勤	歯科医師	人数	1	3	3
		市町村数	1	3	3
	歯科衛生士	人数	20	23	21
		市町村数	12	13	11
非常勤	歯科医師	人数	626	21	29
		市町村数	14	3	3
	歯科衛生士	人数	220	125	11
		市町村数	23	21	4

(3) 健診業務の実施状況（複数回答可）

	配置		市町村数
乳幼児 歯科健診	直営	職員	39
		業務毎に雇用	17
		その他	35
			5
	委託		4
成人 歯科健診	直営	職員	6
		業務毎に雇用	1
			6
	委託		39

(4) 歯科口腔保健に係る集団健康教育の実施状況

実施		市町村数	(%)
有		29	69.0
	歯科専門職 有	24	—
	歯科専門職 無	5	—
無		13	31.0
	歯科専門職 有	7	—
	歯科専門職 無	6	—

(5) 本事業で作成する啓発資料（スライド）について

①ライフステージ別の歯と口の健康について希望するテーマ（複数回答可）

ライフステージ	回答数
妊産婦	35
乳幼児期	37
学齢期	13
成人期	35
高齢期	33
歯科健診を受診することが困難など配慮の必要な人（要介護者、障がい児者）	18

②全身の健康や生活習慣等と歯と口の健康の関係について希望するテーマ（複数回答可）

テーマ	回答数
生活習慣病（糖尿病等）の予防	37
がん予防、がん検診	26
健康増進の方法	25
食生活の在り方	20
フレイル等	30
肥満	15
高血圧	18
心臓病	12
認知症	24
介護予防	25
タバコ、受動喫煙	28
骨粗しょう症	17
災害対策	24
誤嚥性肺炎	23

③希望する啓発資料（スライド）の説明時間（複数回答可）

時間	回答数
5分程度	10
10分程度	22
15分程度	27
30分程度	27
45分程度	10
1時間程度	9

(6) 本会で行う市町村担当者向け研修会について、比較的参加しやすい時期。

(複数回答可)

時期	回答数
10月	14
11月	19
12月	27
1月	26
2月	19
3月	3

(7) 本事業で作成する歯科口腔保健の啓発チラシについて、健診受診率の向上に効果的だと思う内容。(複数回答可)

時期	回答数
エビデンス (データ、グラフなど)	44
歯と口の健康が失われたらどうなるかのエピソード	42
症例写真	30
啓発標語	11
歯周病やオーラルフレイルのチェックリスト	41

(8) その他の希望等

- ・妊婦の歯科健診の啓発チラシのひな型。
- ・4か月健診で早期から乳歯ケアアプローチのための啓発資料。
- ・対象者がリスクに気づくポイントを伝える方法、対象者が口腔の健康のために自宅で継続して行える口腔ケアや体操などの効果的な指導方法を学びたい。
- ・歯科健診の継続受診の必要性、正しい歯みがき習慣についての啓発資料。
- ・スライドは説明する順番の変更や自由に組み換えができたり、文言や表現を変更・追記できるような柔軟な機能であることを希望。

2-3 市町村職員歯科コーチングスキル向上研修会の実施

本事業で作成した府民向け啓発資料(スライド)や啓発チラシの活用方法について、市町村職員を対象に研修会を行った。

○第1回

【開催日時】 令和元年11月15日(金) 13時30分～15時

【開催場所】 大阪府歯科医師会

【講師】 大阪府歯科医師会理事 山本 道也
大阪府歯科医師会理事 長尾 光理

【研修内容】

事業説明

1) 市町村職員の歯科コーチングスキル向上事業について
2) 市町村における集団健康教育の現状等調査の結果について
府民向け啓発資料等の活用方法について

- 1) 市町村職員の歯科コーチングスキル向上テキストの使い方
- 2) ライフステージ別講演
 - ①妊産婦の歯とお口の健康
 - ②乳幼児期の歯とお口の健康
- 3) 府民向け啓発チラシ、データ集について

【参加者】 25名(保健師8名、歯科医師2名、歯科衛生士13名、管理栄養士2名)

○第2回

【開催日時】 令和元年12月20日(金) 13時30分～15時

【開催場所】 大阪府歯科医師会

【講師】 (順不同・敬称略)

大阪府歯科医師会理事 北垣 英俊
大阪府歯科衛生士会常務理事 間狩 みな子

【研修内容】

府民向け啓発資料等の活用方法について

- 1) 市町村職員の歯科コーチングスキル向上テキストの使い方
- 2) ライフステージ別、その他のテーマ別講演
 - ①成人期の歯とお口の健康
 - ②歯周病と糖尿病
 - ③タバコと歯とお口の健康
 - ④口臭
- 3) 府民向け啓発チラシ、データ集について

【参加者】 23名(保健師12名、歯科衛生士7名、管理栄養士4名)

○第3回

【開催日時】 令和2年1月22日（水） 13時30分～15時

【開催場所】 大阪府歯科医師会

【講師】（順不同・敬称略）

大阪府歯科医師会理事 山本 道也

大阪府歯科衛生士会専務理事 品田 和子

大阪府歯科衛生士会常務理事 大野 公子

【研修内容】

府民向け啓発資料等の活用方法について

1) 市町村職員の歯科コーチングスキル向上テキストの使い方

2) ライフステージ別、その他のテーマ別講演

①高齢期の歯とお口の健康

②誤嚥性肺炎

③認知症と口腔ケア

④災害対策

3) 府民向け啓発チラシ、データ集について

【参加者】 18名（保健師12名、歯科衛生士3名、管理栄養士3名）

○第4回

【開催日時】 令和2年2月7日（金） 13時30分～15時

【開催場所】 大阪府歯科医師会

【講師】（順不同・敬称略）

大阪府歯科医師会理事 北垣 英俊

大阪府歯科医師会理事 山本 道也

大阪府歯科医師会理事 長尾 光理

大阪府歯科衛生士会専務理事 品田 和子

【研修内容】

講義

1) 市町村職員の歯科コーチングスキル向上事業について

2) 第1～3回研修会のまとめ

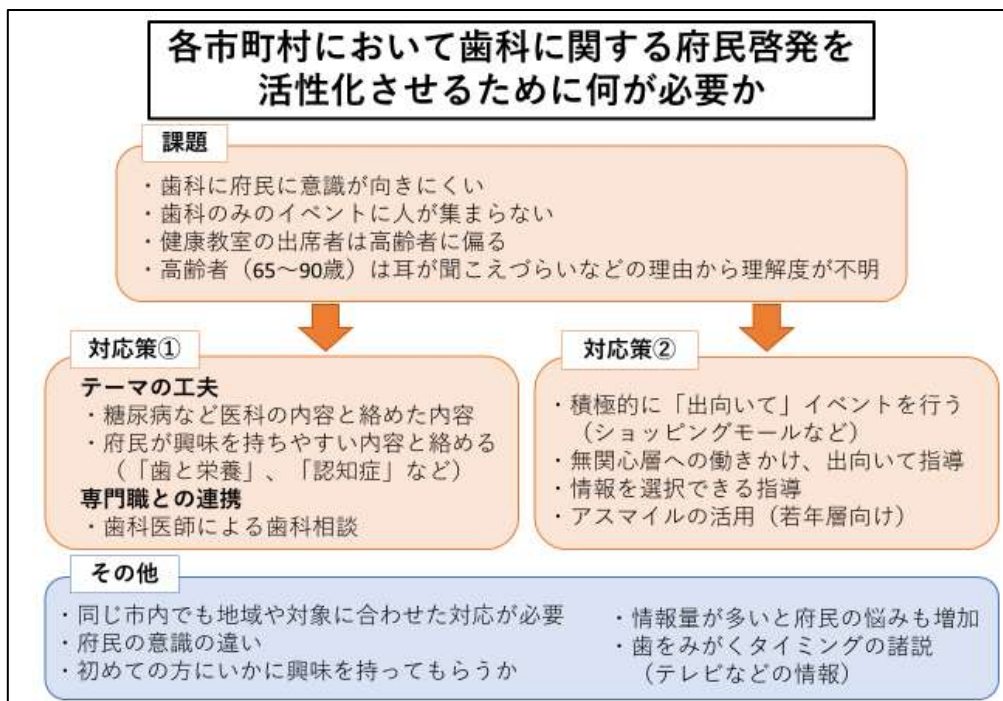
グループワーク

「各市町村において歯科に関する府民啓発を活性化させるために何が必要か」

【参加者】 9名（保健師3名、歯科衛生士5名、管理栄養士1名）

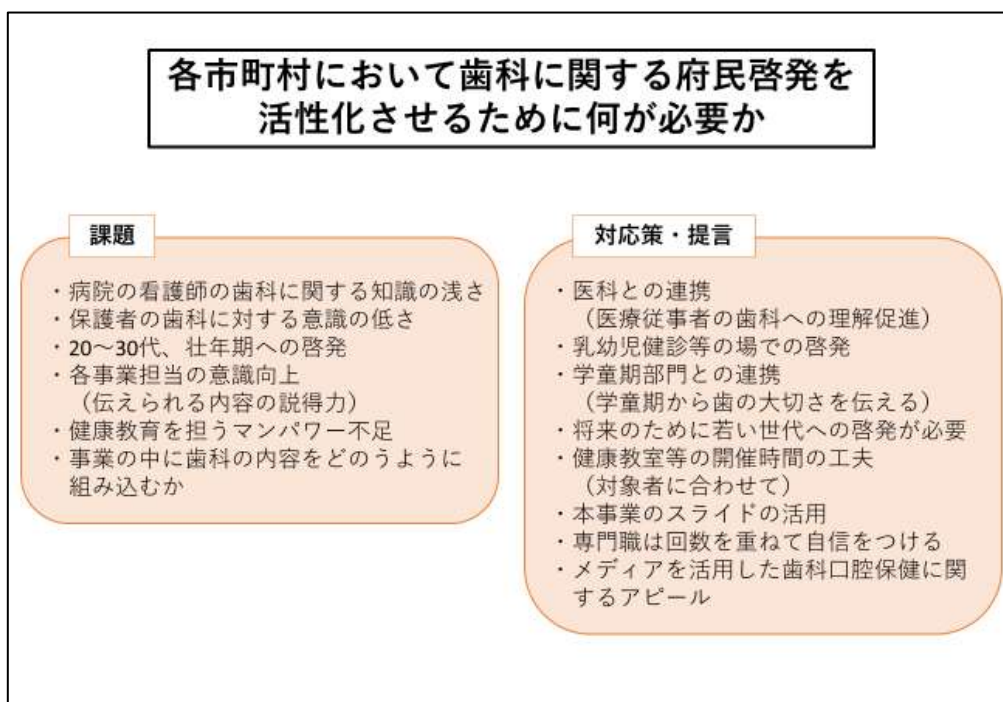
【グループワークの結論】

< Aグループ >



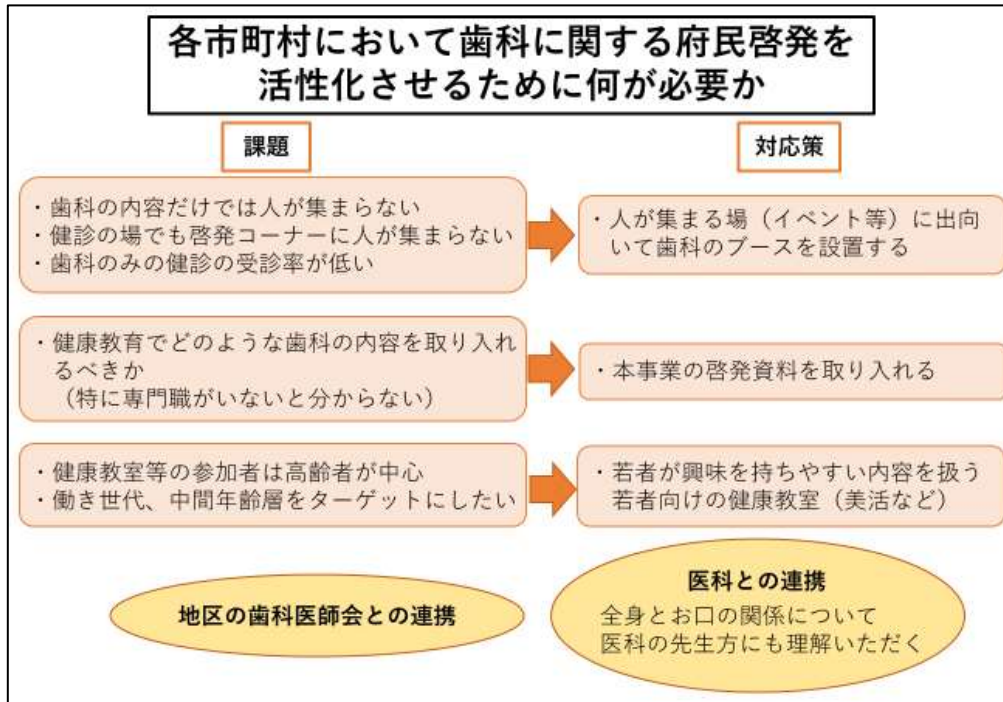
結論：府民の興味を引くようなテーマ設定や対話型の相談の場の設置、アスマイルの活用等によって意識の低い府民に対してもきっかけづくりをすることが必要。

< Bグループ >



結論：将来の健康のために乳幼児から高齢期まで全てのライフステージにおいて啓発が重要。メディアを活用した啓発活動やアピールも必要。

< Cグループ >



結論：本事業の啓発資料等を取り入れながら、人の集まる場に自ら出向いて啓発を行うことが必要。その中で地区歯科医師会や医科とも連携していくことが大切。

【アンケート結果】

(1) 講義（研修）内容について理解できましたか。

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
よく理解できた	12	50.0	9	39.1	13	76.5	6	75.0
おおむね理解できた	11	45.8	10	43.5	4	23.5	2	25.0
どちらでもない	0	0.0	4	17.4	0	0.0	0	0.0
あまり理解できなかった	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
理解できなかった	1	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(2) 内容に対しての研修時間は適切でしたか。

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
短い	0	0.0	2	8.7	0	0.0	0	0.0
やや短い	14	58.3	2	8.7	5	29.4	4	50.0
適切	9	37.5	18	78.3	12	70.6	4	50.0
やや長い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
長い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(3)

第1～3回：今後、市町村での健康教育等で活用したいと思うスライドはありましたか。

	第1回		第2回		第3回	
	人数	%	人数	%	人数	%
大いにあった	6	25.0	3	13.0	6	35.3
あった	15	62.5	12	52.2	10	58.8
どちらでもない	1	4.2	5	21.7	0	0.0
あまりなかった	1	4.2	1	4.3	0	0.0
活用したいが、そのための知識を身につける必要がある	1	4.2	1	4.3	1	5.9

第4回：今後、市町村での健康教育等で活かせる内容はありましたか。

	第4回	
	人数	%
大いにあった	4	50.0
あった	4	50.0
どちらでもない	0	0.0
あまりなかった	0	0.0

3 事業評価

大阪府民の歯科に関する状況は、8020達成者率、40歳におけるむし歯率、歯周病率等、全国平均に届かない数値であり、府民の歯科に対する意識向上のためには府民への啓発活動が非常に重要である。

しかし、大阪府内には常勤歯科専門職が不在の市町村が多数あり、歯科専門職以外の市町村職員は府民啓発の場で歯科にかかるトピックスを扱いつらい等の理由から、歯科に関する府民啓発が十分でないと考えられる。

実際、本事業で実施した市町村における集団健康教育の現状等調査の結果からも、回答のあった42市町村のうち27市町村(64.3%)には常勤歯科専門職が不在であり、常勤・非常勤ともに歯科専門職の配置が全くない市町村が11市町村(26.2%)もあることが明らかになった。また、歯科に関する集団健康教育を実施していない市町村が13市町村(31.0%)と全体の約3分の1を占めていることも分かった。

そこで、本事業では府民へ直接健康指導を行っている市町村職員の歯科にかかる専門性を高め、歯科に関する府民啓発を活性化させることを目的に、市町村職員に対して府民向け啓発資料等の提供や研修会を実施した。

全4回実施した市町村職員歯科コーチングスキル向上研修会には、延べ75名(保健師35名、歯科医師2名、歯科衛生士28名、管理栄養士10名)が参加した。

研修会のアンケートでは、提供した啓発資料(スライド)について、活用したいと思うスライドが「大いにあった」、「あった」という回答が第1～3回をとおして80%以上得られ、次年度以降、各市町村でこれらの啓発資料を活用した歯科に関する府民啓発の活性化が期待できる。

4回目の研修会で実施したグループワークでは、歯科に関する府民啓発を活性化させるために、「積極的に人の集まる場所に出向く」、「府民が興味を持ちやすいようなテーマの工夫」、「地区の歯科医師会との連携」など、今後の府民啓発の活性化に繋がるような前向きな意見が多数あがった。

今後は、各市町村において、更に地域の歯科医師会と連携を深め、今年度提供した啓発資料等を活用し、府民への啓発活動を展開していく必要があると考えられる。